ISSN 2189-1826

月刊ニューズレター
現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて

第89号 2022年5月15日

編集・発行 『月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』編集委員会
（編集世話人 冨岡勝・谷本宗生）
連絡先 大阪府東大阪市小若江3-4-1
近畿大学教職教育部 冨岡研究室
e-mail: tomiokamasa@kindai.ac.jp
HP（最新号とバックナンバーを公開中）
http://home.hiroshima-u.ac.jp/komiyama/gen-dai-kyou-ken/

コラム 静岡大学雄萠寮の閉寮決定を受けて	猪瀬 貴大	2
逸話と世評で綴る女子教育史（89） －兵庫県のさまざまな女学校－	神辺 靖光	7
大東文化大学学生相談室からの涙活アドバイス －『学生相談室だより』第9号（2021年12月）にて －	谷本 宗生	13
明治後期に興った女子の専門学校（44） 弓町から菊坂の女子美へ	長本 裕子	16
新制高等学校の補習科・専攻科の歴史的研究に関する覚書 （14）：鳥取東高等学校『柏葉』にみる専攻科（14）	吉野 剛弘	21
教育史研究のための大学アーカイブズガイド（31） ―法政大学 HOSEI ミュージアム―	田中 智子	27
史料紹介 『校友』（松本中学校文芸部）第 89 号より その 1 小西謙「松中の再建」	冨岡 勝	32
体験的文献紹介(37) －『高等学校学習指導要領』の改訂 －	神辺 靖光	34
刊行要項（2015年6月15日現在）		41
短評・文献紹介		42
会員消息		43

コラム

静岡大学雄萠寮の閉寮決定を受けて

猪瀬（いのせ） 貴大（たかひろ）
（ 静岡大学卒業生）

雄萠寮最後のストーム
（筆者撮影、2018 年 4 月）

筆者が大学時代を過ごした静岡大学雄萠寮は、2024年3月を以って運用を停止すると決定した。1969年3月の完成から55年にて幕を降ろすこととなる。本稿においては、静岡大学の学生寮全体を概観した上で、雄萠寮閉寮の背景や現状に関して紹介したい。

まず、静岡キャンパスには雄萠寮の他に片山寮が設置されている。雄萠寮が大学へも静岡駅へも 3km 弱のほぼ中間地点に立地する男子寮であるのに対し、片山寮はキャンパス内に位置する男女 2 棟の併設された寮である。共通点として、1960 年代後半に完成した鉄筋 5 階建てである点、相部屋の自治寮である点が挙げられる。片山寮は現在も新歓・卒寮・寮祭など開寮当初からのルーツを持つ行事を継承する。

次に、浜松キャンパスには大学から 1km 強離れた敷地にあかつき寮・あけぼの寮が併設されている。あかつき寮は相部屋の男子自治寮である点は雄萠寮と共通する。他方、建物が改装され比較的新しい点、旧来からの行事を行わず、生活のための役割分担も最小限にとどめる運営している点は、静岡キャンパスの寮とは異なる。あけぼの寮は日本人女子と留学生を対象とした完全個室制で、自治の体制は採っていない。

続いて、それら 4 寮の寮生数推移についてグラフ 1～3 を参照され

たい。グラフ１は寮ごとの定員充足率の推移を示したグラフである。静岡キャンパスの寮において 2016 年頃から大きく減少する動きが見られる一方、浜松キャンパスの寮は 2020 年まで定員充足率 90%以上の横ばいを維持している。グラフ 2･3 は対象を新入寮生数とし、静岡・浜松それぞれの合計数にも着目している。こちらもグラフ１とほぼ同様の傾向が確認できる。静岡キャンパスの築 50 余年の相部屋自治寮が支持されていない実態を表わしていると言えるのではなかろうか。とりわけ近年の雄萠寮における寮生減少は著しい。

閉寮する雄萠寮は自治寮の形式こそ採っているものの、体現されているのはごく控えめな自治である。寮の存続や建て替えに向けた何らかの意思を持つ寮生は多いのかも知れないが、現状変更を促すまでの行動には至らなかった。或る寮生は「閉寮は唯唯諾諾と決まってしまい、後悔がないとは言えない」と語る。おしなべて寮生らに閉寮への強い抵抗や困惑の色は感じられなかったけれど、必ずしも納得はしていない、というのが実情かも知れない。

表 1 には閉寮への歩みを記載している。寮食廃止や新入寮生受け入れ停止、閉寮決定に至るまで、ほとんどの項目は大学側からの大枠提案を寮自治会が検討し、承認する形で決定されている。

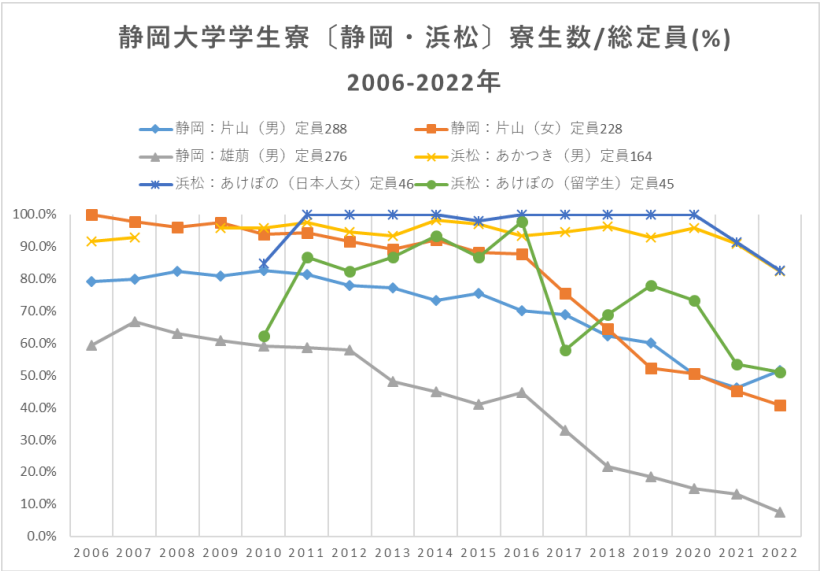
ところで 2018 年 10 月の本ニューズレターコラムにて題材とした、旧制静岡高校以来の寮蔵書および 1960 年代以降の寮自治会資料の寄贈については、閉寮決定を契機として多少の動きがあった。蔵書の寄贈先として、第 1 に大学附属図書館、第 2 に大学文書資料室の順で所蔵可能な分を受け入れし、いずれでも所蔵できなかった分は個人への譲渡や処分・売却などを検討する、との運びとなった。現在は筆者作成の蔵書目録を元に、各機関への受け入れ対象を精査してもらっている。なお、寮自治会資料については具体的な決定を聞いていない。

筆者としては、あくまで蔵書・自治会資料を一箇所に保管することが

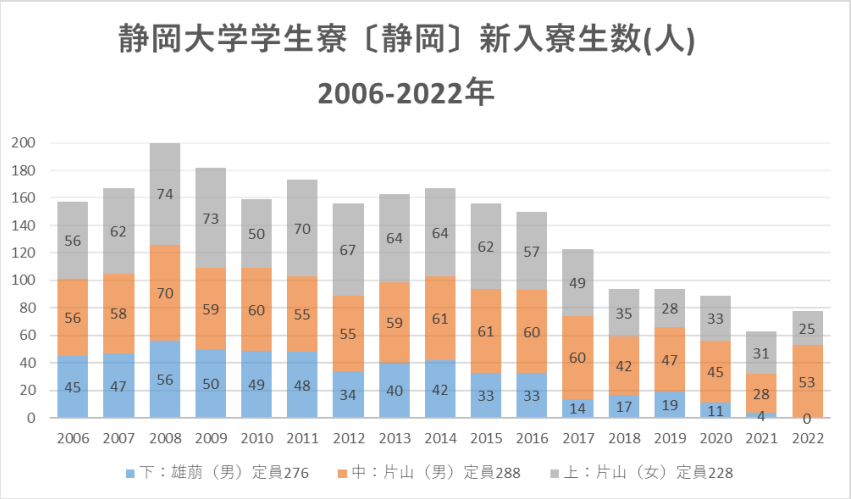
理想と考えているものの、大学文書資料室による検討の結果であることを尊重し、前述の処遇に同意している。閉寮に際して散逸のないよう引き続き見守っていきたい。

雄萠寮に継承されてきた有形無形の遺物・制度・慣習が、少なくとも学生寮として動的には継承されず、断絶してしまう見込みであることは実に残念である。とりわけ強く影響を受けた前身寮である旧制静岡高等学校寄宿寮の開寮から今日の雄萠寮に至るまで、寮の在り方は大きく変化した。筆者としては、雄萠寮の盛衰を「時代の流れだから仕方がない」という一言でまとめてしまうには些か物足りないような、歴史の悪戯を感じている次第である。

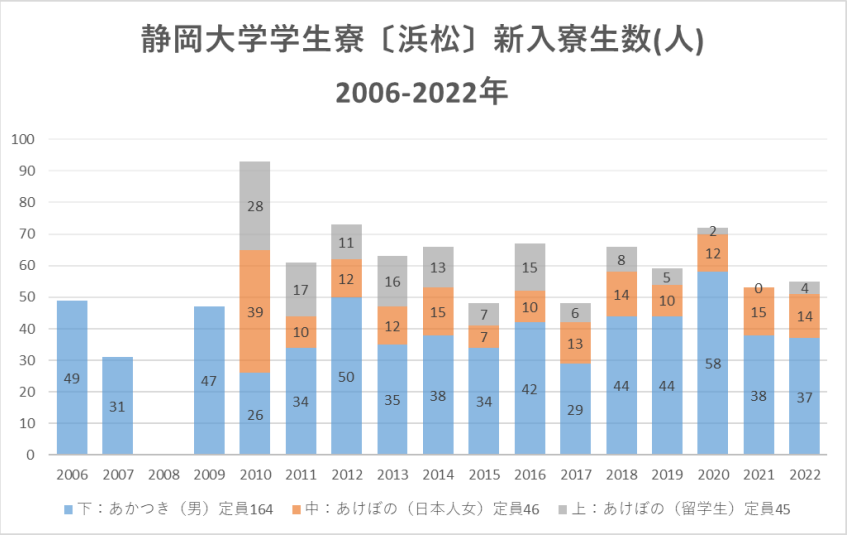
【グラフ Ⅰ】



【グラフ２】



【グラフ３】



（グラフ１～３　出典）

・静岡大学学生生活課提供データより筆者作成

（備考）

・寮生数・新入寮生数はいずれも各年４月１日現在。

・あかつき寮（浜松・男子）の 2008 年データは欠損。
・あけぼの寮（浜松・留学生および日本人女子）の開寮は 2010 年。

【表 1】雄萠寮閉寮にむけた動き

年	月	できごと
2013	4	寮生総数が定員の 2 分の 1 を下回る。
2018	4	寮生総数が定員の 4 分の 1 を下回る。 この年の新歓ストームが結果的に最後のストームとなる（冒頭写真参照）。 5 階（「伍寮」）の著しい寮生減少をふまえ、5 階のみ新入生受け入れせず。
2019	10	炊フ不足を契機として寮食廃止。
2020	2	大学側が作成する入寮募集要項に「卒業まで在寮できない可能性がある」旨の記載が入る。
	3	5 階寮生（3 人）が卒寮・他階移住により 5 階を運用停止（「伍寮」終焉）。
2021	7	寮内に閉寮委員会が立ち上がる。
	8	閉寮委員会が「2024 年 3 月閉寮」および「2022 年 4 月から寮生募集停止」などを謳う「承認書」を寮生に向けて配布し、署名の上回収。
	10	閉寮時期が 2024 年 3 月に正式決定。
2022	3	静岡新聞による閉寮決定の報道。

（表 1　出典）
・雄萠寮生への聞き取り調査（2022 年 5 月 3 日）
・静岡新聞「静岡大学「雄萠寮」 新規募集停止、2024 年春で運用終了」（2022 年 3 月 17 日付）

コラム欄では読者の方からの投稿もお待ちしています。

逸話と世評で綴る女子教育史（89）
―兵庫県のさまざまな女学校―

神辺（かんべ） 靖光（やすみつ）（ニューズレター同人）

これから大正期の高等女学校と実科高等女学校を素描してゆくが、900にも及ぶ全国の女学校を全部書くわけにはゆかない。そこで多彩なタイプの女学校をつくりあげた近畿の兵庫県、九州の熊本県、本州のど真ん中にある長野県、東北の岩手県に焦点を当てて述べよう。

兵庫県が現在のような形になったのは明治 9（1876）年に但馬（たじま）・丹波（たんば）の豊岡（とよおか）県、播磨（はりま）の飾磨（しかま）県、摂津（せっつ）の兵庫県（第2次）が合併されたからである。この地は京・大阪という政治・経済の権威権力に接し、西に山陰道、山陽道、また瀬戸内海を利用して西海道、南海道につながる。経済と文化が絶えず流通する要地であった。織豊政権にとってこの地は西海、南海地方に勢力を伸ばす足がかりだったので大きな大名はすべてつぶされ、徳川政権時代になると幕府の直轄地や御三家、寺社領等がひしめいた。廃藩置県後、小県が林立したのはそのためである。従って近世以来の権力を奮う旧大名はいない。しかし兵庫津の豪商・北風荘右衛門（廻船問屋）や神田右衛門（干鰯問屋）らの豪商が財力にものを言わせて権力を奮うことはあった。明治になると外国との貿易で神戸港が日本最大の輸出輸入港になった。輸出では初期、神戸でつくられたマッチが東南アジア市場を掌中におさめ、また綿花を大量に輸入して日本の紡績業を盛大にした。このような外国貿易の要地・神戸には当然、造船という構想が湧いてくる。重化学工業が盛んになった明治時代、神戸港周辺に川崎造船所、三菱神戸造船所、播磨造船会社等が林立した。これら造船業のリーダーたちは国際化時代に新しい感覚を持ち、例えば川崎造船社長・松方幸次郎にみるように西洋の名画を収集する（松方コレクション）など文化的教育的な才能を発揮したのである。

こうした風土が自由を謳歌する大正時代に興隆する。これまで述べてきた通り、中産階級を代表するサラリーマンが、新らしい都市文化に自由を求めて享楽するなか、労働者たちも生活の自由を求めてさまざまな要求をはじめた。大正３年、神戸で労働組合友愛会が結成されたし、大正７年、富山県の漁夫の女房達が米騒動を起すと忽ち兵庫県に飛び火して神戸から西播、但馬、摂津、丹波の県内一円で女房たちが騒ぎはじめた。大正１０年には三菱造船所、川崎造船所で大争議が興る。しかし女房連の米騒動も、造船所の大騒動も為政者の適切な処置、企業者の解決策によっておさまり、暗い影を残さない。すべての県民が言いたいことは言うという大正デモクラシーの空気が兵庫県にみられたのである。このような土地柄ゆえ兵庫県にはいろいろなタイプの女学校ができるが、まず神戸とその周辺にできた私立女学校からみてゆこう。

［表１］私立高等女学校・実科高等女学校

設立年	学校名	設置者	所在地
M41	私立親和高女	財団法人親和高女	神戸市
T4	私立松蔭高女	財団法人私立松蔭高女	神戸市
T9	甲南高女	財団法人甲南学園	武庫郡本山村
T12	神戸市森高女	森わさ	神戸市
T13	住吉聖心女子学院高女	私立聖心女子学院	武庫郡住吉村
T13	私立亀山高女	大谷昭道	飾磨郡手柄村
T13	神戸成徳高女	榎村稔外３名	神戸市
T15	神戸野田高女	財団法人神戸野田奨学会	神戸市
T15	神戸山手高女	鹿島房次郎外29名	神戸市
T13	私立柳実科高女	柳利三郎	津名郡洲本町

注）T4は大正4年の略、M41 は明治 41 年の略

本表は『全国高等女学校・実科高等女学校ニ関スル諸調査・大正15 年』（文部省『教育統計調査資料集成』による）

［表2］大正 15 年　兵庫県私立女学校

設置年	学校名	設置者	位置
M9	神戸英和女学校	アメリカンボード	神戸市
T8	裁縫女塾	幸田たま	神戸市
T10	共愛裁縫女学校	摺河静男	姫路市
T11	須磨裁縫女学校	西田のぶ	神戸市
T12	パルモア女子英学院	米国メソジスト	神戸市
T13	増谷裁縫塾	増谷かめ	西宮市
T14	睦高等技塾	河野厳想	神戸市

日本私立中学高等学校連合会『私学の創立者とその学風』による

［表1］は大正 15 年の文部省の諸調査から私立の高等女学校・実科高等女学校を抜き出したものであるが、この表にある高等女学校は文部省が「高等女学校令」によって認可した学校に限られている。実態を表示していない不完全なものである。例えばアメリカンボードミッションのタルカットによって明治 9 年創設された神戸女学院はこの表に載っていない。この学校は創設以来、生々発展して現在に至るが、「高等女学校令」の認可を受けなかったからである。明治 32 年の訓令 12 号、キリスト教弾圧はすでに昔話になって人々は気にかけないし、神戸周辺の都会人はミッション女学校の高級感を歓迎していたから各種学校扱いでも痛痒（つうよう）を感じなかったのであろう。このように高等女学校や実科高等女学校の許可を受けなくてもこれらと同等の実力をもっ

て活動し現在、私立高等学校以上の女子学校になっているものがあるので別に一覧表を作った（表2）。

創立者
H・J・フォス師

松蔭高女

両表によって私立女学校の趨勢をみよう。キリスト教関係をみるとまず松蔭（しょういん）高等女学校がある。大正 4 年設立になっているが、これは高等女学校に認可された年で、創立は明治 25 年に遡（さかのぼ）る。英国聖公会の司祭フォスによって神戸市北野にできたもので松蔭女学校と称した。松蔭高等学校として現代に続いている。大正 12 年、神戸市にパルモア女子英学院が創立された。米国メソジスト教会伝道局の婦人宣教師 C.G.ハランドによるもので啓明女学院高等学校として現在に続いている。同じく大正 12 年、武庫郡住吉村に住吉聖心女子学院が設置された。ローマカトリック系の女学校で明治 43 年東京にできた聖心女学院の姉妹校をなすものである。大正 15 年、宝塚市の小林校舎に移転して小林聖心女子学院と改称した。小林聖心女子学院高等学校として現在に続く。聖徳太子の「和をもって貴しとなす」を建学の精神とし、自らを浄土真宗本願寺派の宗門学校としたのが大正 14 年創立の睦（むつみ）高等技塾である。これより前、聖徳太子の記念事業として神戸市に太子館を造営した時にはじめた日曜学校に高等裁縫部を置いたが、それを河野厳想が私立女学校・睦高等技塾にしたのである。昭和 4 年には須磨睦技芸女学校と改称した。須磨ノ浦女子高等学校として現在に続く。

創立者
理事長　河野厳想

睦高等技塾

創立者　友國晴子

親和高女

次に高等女学校令による認可を受けた私立女学校を年次順に記そう。明治 20 年、神戸元町に開設された私立親和女学校が校長・友国晴子の奮闘努力によって明治 41 年、私立親和高等女学校に認可され

た。親和女子高等学校として現代に続く（親和女子大学併設）。次いで大正９年、財団法人甲南学園が甲南高等女学校を設置申請、認可された。甲南学園は平生釟三郎らが財界の子弟教育のためにすでに甲南小学校、甲南中学校をたて、大正１２年には甲南高等学校をたて、甲南高等女学校の設置はその一環である。甲南女子高等学校として現在に続く（甲南女子大学併設）。大正１２年、神戸市森高等女学校が設置された。この学校は明治４５年設立の私立森女学校が高等女学校の設置認可を受けて私立高等女学校になったものである。創立者の森和佐はキリスト教からも仏教、特に臨済禅からも影響を受けた人物で日本人の長所美点を備えた女性の育成を教育方針とし「照顧脚下」（身の回りのことを正せ）を校是とした。神戸学院女子高等学校（神戸学院大学併置）として現代に続く。大正１５年、神戸市郊外野田村の有力者による協議会（代表・大前光太朗）が高等女学校を計画、文部省の認可を受けて神戸野田高等女学校を設置した。真理の追求者として「まじめさ」と体位向上のための「すこやかさ」をモットーとした。神戸野田高等学校として現代に続く。

創立者　森　和佐

森高女

創立者　大前光太郎

野田高女

裁縫系の女学校をみよう。これらは皆各種学校扱いだから文部省の諸調査には登場しない。大正８年に幸田たまが神戸湊川の地に３名の生徒で裁縫女塾を開いた。西灘に校舎を新築して昭和３年、甲種実業女学校になり湊川女子高等学校として現代に続く（湊川女子短大併設）。大正１０年、姫路市に共愛裁縫女学校が設立された。創立者は摺河（すりがわ）静男で姫路に住む剣道家であったが、国家社会家庭の繁

創立者　幸田たま

裁縫女学校

栄幸福の道は女子の啓蒙教育と悟り、裁縫女学校を創立したという。兵庫県播磨高等学校（女子校）として現代に続く。大正 11 年、裁縫教師の西田のぶが女子の職業学校として神戸市須磨区に須磨裁縫女学校を創立した。学校法人須磨学園・須磨女子高等学校として現代に続いている。

創立者　摺河静男

共愛裁縫女学校

創立者　西田のぶ

須磨裁縫女学校

参考文献

八木哲浩・石田善人『兵庫県の歴史』（山川出版県史シリーズ）。

鈴木正幸『兵庫県の教育史』（思文閣）。

兵庫県教育委員会『兵庫県教育史』。

桜井役『女子教育史』。

日本私立中学高等学校連合会『私学の創立者とその学風』。

大東文化大学学生相談室からの涙活アドバイス
―『学生相談室だより』第9号（2021年12月）にて ―

谷本（たにもと） 宗生（むねお）（大東文化大学）

大東文化大学の学生相談室は、在籍する学生の皆さんが豊かで充実した学生生活をおくるためのサポート・手助け役をつとめている。東松山と板橋の両キャンパスにあり（大学保健室の横）、複数のカウンセラー（臨床心理士）や心療内科・精神科医師らが担当日時に応じて、学生相談に熱心にあたっている。

以下、学生相談室から学生らに向けて定期的に刊行されている『学生相談室だより』から、2021年12月の第9号（涙活）を紹介したい。

＊＊＊ ＊＊＊ ＊＊＊ ＊＊＊ ＊＊＊ ＊＊＊ ＊＊＊ ＊＊＊ ＊＊＊

こんにちは、学生相談室です。ところで、皆さん最近、泣きましたか？長引くコロナ禍で、思っていたような学生生活が送れない、人との関わりが減ってしまい寂しい。いやいや、他にもっと大変な状況に置かれている人、もっと頑張っている人は沢山いるから、弱音なんか吐けない、泣いてはいけない、と我慢していませんか？

実は「泣く」のはとても良いストレス解消法の一つなんです。自分のことで泣くのは抵抗がある人は、心が動かされるような映画や音楽、小説などで「泣く練習」をしてみましょう。今回は涙の効用と「涙活」を取り上げます。

涙の効用

① ストレスに反応して作られる「ストレスホルモン」コルチゾールを体外に出すデトックス効果

② ストレスで交感神経優位になっている状態を副交感神経優位の状態にするリセット効果

③ セロトニン増加で安眠効果

④ 涙に含まれるエンドルフィンの鎮静作用で痛みを緩和

辛い時、悲しい時、思い切り泣くことで、感情を解放し、リセットできたり、ストレスを洗い流したりすることが出来ます。④の作用があるので、痛い時に泣くのも理に適っています。

「涙活」ノススメ

意識的に泣くことでストレス解消を図る「涙活」。1週間に1回、2～3分涙を流すだけでも日頃のストレスを軽減する効果があります。その時大事なのは、気持ちが動かされることによって流れる「情動の涙」であること。喜怒哀楽のいずれでも構いません。対象に共感することにより心も涙腺も柔らかくなります。

最も効果的なのは「感動の涙」。例えば色々なジャンルの映画を観て自分の泣きのツボをさがしてみましょう。家族、恋愛（失恋）、動物、スポーツ、音楽、ドキュメンタリーなど。時間に余裕のある冬休みに、ゆったり映画を見ながら「涙活」してみてはいかがでしょうか。映画や小説は…と思う人はスポーツ観戦もいいかもしれません。是非泣けるツボを探してみてくださいね。

あたたかい涙

映画　監督まんきゅう『すみっコぐらし　とびだす絵本とひみつのコ』2019年

すみっコとは寒がりのしろくまや捕まることを恐れてとかげを自称し続ける恐竜など「部屋の隅」を好むかわいらしいキャラクター達。あるすみっコを助けるためにみんなで奮闘することになるのですが…。キャ

ラクターの雰囲気とは一味違う最後の着地が涙を誘います。よくよく考えると誰にもでも「すみっコ」となる側面はあるので、癒されるのかもしれません。

あたたかい涙

音楽　坂本九『上を向いて歩こう』

海外でも「SUKIYAKI」としてカバーされていますが、ぜひオリジナルを聴いて下さい。

九ちゃんの明るいのにどこか影のある声が孤独感をあたたかく包んでくれます。孤独を感じる夜に口ずさむのも歌詞が心に染みます。

＊＊＊　＊＊＊　＊＊＊　＊＊＊　＊＊＊　＊＊＊　＊＊＊　＊＊＊　＊＊＊

涙活アドバイスほどではないが、あるアニメ視聴サービス・サイトでの10周年記念企画「あなたの人生を変えた…アニメ総選挙100位」の結果発表がされ、僭越ながら私（谷本）も投稿した作品コメントが掲載されたので、少し紹介したいと思う。43位「ウマ娘　プリティーダービーシリーズ」について、「シリーズのなかでも、トウカイテイオーらの交友や活躍はやはり外せない。暮れの有馬記念にいたる道のりも、なんど挫けてもなんど悔しい思いをしても、最後まで勝負を諦めない‥気持ちが素晴らしい。絶対はボクだ！と叫ぶシーンは印象深い。作品から自身の人生でも、たとえ困難や障害があっても、自分を信じる気持ちが揺るがなければ、勝機は必ずあるとつよく勇気づけられた。落ち込んだ時に視聴すれば、元気が湧いて出るから不思議だ。自分が考えている限界の先に果敢に挑戦していく、そんな熱い気持ちを共有できるのが魅力」と記している。

明治後期に興った女子の専門学校（44）
弓町から菊坂の女子美へ

長本（ながもと） 裕子（ゆうこ）(ニューズレター同人)

明治35年1月15日、正式に佐藤志津が設立者として変更届を提出した。志津は、校長としての校務のほか、修身、作法、講話を受け持ち教壇に立った。さらに寄宿舎に宿泊してたびたび生徒と寝食を共にした。学校内の結束を固めるために、つつじが咲く4月や菊が咲く秋に、駒込の自邸に在校生と教職員を招いて交流をはかった。志津は人に会うたびに学校の教育方針や授業内容を話し、生徒集めに努めた。やがて、芝の青松寺の講話会で、政財界で活躍する人たちの子女の応募が増えた。慈善団体で一緒に活動している毛利安子公爵夫人（幕末の最後の長州藩主・毛利元徳正室）ら多くの女性たちが協力してくれた。志津の幅広い交遊関係の中で、志津の上品な人格や女子美の個性的で自由で家族的な校風を慕い、入学を希望する生徒が増えていった。

40年4月13日、学則を改正し、専攻の学科を主分類とした。

第1章総則

第一条　本校ハ女子ノ徳性知識を涵養シ兼テ女子ニ適当ナル優美ノ芸術ヲ教授シ内ニ在リテハ良妻賢母タリ外ニ処シテハ文明ヲ稗補スルノ技術家及教育家タルモノヲ養成スル所トス

とした。創立当初の目的「女子ノ美術的技能ヲ発揮セシメ専門ノ技術家及教員タルベキ者を養成スル」と比較すると、「優美」「良妻賢母」など、32年文部大臣樺山資紀が訓示した語句が織り込まれている。これを謳わなければ生徒が集まらない世情になっていたからであろう。

第二条　本校生徒定員ヲ六百五十名トス

第三条　本校ハ左ノ八分科ヲ置ク

日本画、西洋画、彫塑、蒔絵、刺繍、編物、造花、裁縫

それぞれ本科・選科（普通科3ケ年・高等科2ケ年）、研究科1ケ年が置かれている。但し、刺繍・編物・造花・裁縫科の選科普通科は2ケ年、編物・造花・裁縫科の選科高等科は1ケ年、編物科には速成科5ケ月、編物・造花科には別科2ケ年が置かれた。

第四条　本校ハ附属トシテ料理科ヲ置ク但シ其ノ規則ハ別ニ之ヲ定ム

とあり、刺繍・編物・造花・裁縫・料理がそろって学べる、まさに「良妻賢母」としての教養を養う上に、優美な芸術を学び、文明を稗補する技術家及び教育家として職業婦人への道を提示したものといえよう。入学金2円、授業料は本科・選科ともに、普通科は1ケ年24円（毎月分納）、高等科・研究科は30円、宿泊料1ケ月7円であった。

35年3月第1回卒業生から42年4月の第14回卒業生まで、いわゆる弓町時代は、選科や速成科も含めて総卒業生979名、そのうち裁縫科が55.8％、刺繍科が13.4％、造花科が13.0％、日本画科が9.3％、編物科が5.7％、西洋画科が2.6％、彫刻科が0.2％である。裁縫科が6割近くを占める。この時代の世間が女子に対して求めているものを象徴している。

39年12月現在、生徒総数650人、卒業生490人を出す。校舎は3階建木造1棟、2階建木造3棟、2階建2棟の寄宿舎であった。生徒も増え、順風満帆であったが、悲劇は突然起こった。失火により、校舎の大半を焼失してしまったのである。

41年10月13日午後6時50分ごろ、3階裁縫科教室から出火し、校舎・寄宿舎の大半を焼失した。寄宿生130名は順天堂医院に避難し無事だった。石膏像も標本類も、裁縫科の豪華な重ねの衣裳類や、

翌日表装屋に送る予定だったできあがったばかりの刺繍科の人物や風景の生徒作品が灰になった。

裁縫科の主任が責任を感じて辞職を願い出たが、霞ヶ浦の別荘から急遽上京した志津は、落ち着いた態度で、「何事も天命です。人事を以て致すことではありません。しかしこれからの始末は一人ではできません。一同心を合わせ、努力して、この取返しをつけていただきたいと思います。」というだけで、責任を問うことはなかった。

西洋画担当の教員で幹事の磯野吉雄の努力により、約1週間で焼け跡に仮校舎が出来上がり、授業は平常に戻った。志津は、現地から500メートルほど北の本郷菊坂の本妙寺の中に土地を借り、新校舎建築計画を立てた。これまでも赤字経営だったが私財を投じて欠損を埋めていた。その上、夫が院長を務める順天堂医院からたびたび資金援助を受けていた。そのため事情を知る人は、「順天堂付属女子美術学校」だと皮肉った。しかし、志津は「医学も美術も人を癒すもので、人間の根幹を扱う世界です。」と言って、むしろ光栄だと喜んだ。

夫や親戚、周囲の人々は、さすがにこの火災に懲りて志津は学校経営から手を引くだろうと思っていた。しかし、志津は、知人縁者を説いて出資金、寄付金を募り、自分の手回りの調度や衣類までも売却して新校舎建築費用にあてた。「志津校長は自分の着物を脱いで学校に着せた」と言う人もあった。夫の進は京城（現韓国ソウル）に滞在中であったが、志津の変わらない情熱を知り、これを機に本心から援助するようになった。42年4月1日、まだ壁のかわかない新校舎で、卒業式と記念展覧会を行い、弓町時代最後の卒業生184名を送り出した。こうして菊坂の女子美時代へと発展する。

42年7月、女子美術学校は本郷区菊坂町（現文京区本郷）89番地に移った。新校舎は、校地614坪、建坪154坪、総3階建、講堂も含めて21室となった。寄宿舎も総3階建で計36室あり、洗面所、食堂、

炊事室、浴室などが付属していた。この設計は、42年3月の卒業式を行えるようにするために、志津の娘婿の真水英夫に依頼した。真水は順天堂医院建て替えの時の設計図を応用し、正味4ケ月で校舎の中心部を完成させた。そのため新校舎は、順天堂本館とそっくりだった。志津は順天堂と女子美は姉妹校だと思っていたので満足だった。

新校舎移転に先立ち、42年2月26日、学則の一部変更を申請した。定員900名。本科普通科への入学資格を尋常小学校卒業程度とする。本科普通科及び本科高等科の修業年限をそれぞれ4ケ年、3ケ年に延長する。別科の修業年限を3ケ年とする。師範科を新設する。授業料は、普通科33円60銭、高等科39円60銭に増額する。

定員を増やし、授業料を上げて、新校舎建築費用等に充てたいと考えたのであろう。この学則は、昭和10年杉並に移転するまで25年間使用された。

新校舎が建築された本妙寺は、江戸時代の明暦3（1657）年正月18日に起こり、3日間燃え続けた「明暦の大火」の火元として知られる。江戸の三分の二を焼き尽くし、江戸時代最大の大火となった。本妙寺の境内と聞いて、夫の進は縁起でもないと反対した。しかし、志津は、東京帝国大学に向かい合うこの地こそ女子美術学校の再スタートにふさわしいのだと主張した。それは父佐藤尚中（たかなか）の無念をはらすためだ。尚中は、明治2年に新政府から懇願されて大学博士に任命され、大学東校（東京大学医学部の前身）の最高責任者となり、創設に尽力した。しかし、4年、政府が招聘したドイツ陸軍軍医ミュルレルと海軍軍医ホフマンが来日すると、二人は尚中の意見を無視してドイツ軍医学校をモデルとした医学教育に変えていった。尚中は、大学大丞、大博士、大典医すべての地位を投げうって、5年、東校から去った。この時路頭に迷う医学生を救うために、6年2月、私立病院順天堂医院を建てたのであった。

新校舎が完成し、学びの環境が整い、大正時代になると生徒たちの活躍が盛んになり、さまざまな博覧会に出品し、表彰されるようになる。そして、「菊坂の女子美」と愛称されるようになる。

志津は大正８年３月、スペイン風邪のため69歳で逝去した。同年５月、夫の佐藤進が三代目校長に就任した。昭和４年６月、女子美術専門学校に昇格する。昭和10年、現在地の杉並区和田に移る。24年、学制改革により女子美術大学を発足する。

女子美術大学には二人の親がいる。産みの親が横井玉子（1854～1903）で、育ての親が佐藤志津（1851～1919）である。二人の親がいなかったなら今日の女子美はなかった。大学にとって二つの星である。（山崎光夫『二つの星』あとがきより）

今もこの地球上に女子の美術大学は二つしかない。アメリカ・ペンシルバニア州フィラデルフィアにあるムーア美術大学と、日本の東京にある女子美術大学だけである。

参考文献

『女子美術大学八十年史』

『二つの星』横井玉子と佐藤志津　女子美術大学建学への道

山崎光夫

新制高等学校の補習科・専攻科の歴史的研究に関する覚書
（14）：鳥取東高等学校『柏葉』にみる専攻科（14）

吉野（よしの） 剛弘（たけひろ）（埼玉学園大学）

今号では、引き続き鳥取東高等学校より刊行されている『柏葉』に掲載された専攻科修了者の進路を検討する。今号では大学以外の機関に進学した者、就職した者を検討していく。

四年制大学進学者以外の情報は、年度によって情報の精粗があり、実態をつかむことが困難である。一方、本当に該当者がいなければ必然的に情報は掲載されないので、精粗という表現の妥当性も危うい。ここでは、『柏葉』から見て取れる範囲で分かることについて述べていくことにする。

まずは文部（科学）省所管外の教育機関であるが、水産大学校、防衛大学校、職業能力開発大学校がそれぞれ一度登場するのみである。職業能力開発大学校は全国に複数あるが、どこの機関に進学したかは不明である。

短期大学については、学校名まで掲載されている年度と合計数のみ掲載されている年度がある。年度によっては代表的な学校名とともに合計人数のみ示されている。学校名が掲載されている年度に限っても、一貫した傾向を見て取ることは困難である。

この傾向は、専修学校・各種学校でも同じである。看護学校は項目立てされる年度もあるが、毎年のことではないので、何らかの傾向を導き出すことは困難である。1982（昭和 57）年度と 1983（昭和 58）年度には「保育専門・その他」、1984（昭和 59）年度と 1985（昭和 60）年度には「その他」という項目に人数が入るが、他の項目を勘案

すると、保育系の専修学校・各種学校に限らず、さまざまな分野の専修学校・各種学校に進学した者が含まれているものと思われる。

最後に検討すべきは、就職した者である。民間企業に就職した者がいた可能性はあるのだが、一切項目立てされておらず、公務員就職のみが示されている。前述の「その他」に民間企業への就職者が含まれる可能性はあるのだが、2 年分しか情報はなく、詳細は不明である。

詳細が示されている公務員として就職した者についてであるが、1980 年代まではコンスタントに存在していたものの、1990 年代から散発的になり、1997（平成 9）年度がデータとして示される最後である（以後にも就職した者がいた可能性は残る）。そもそも専攻科は単なる受験予備校ではないというのが建前であり、就職する者がいることは何ら問題ないばかりか、むしろ専攻科の専攻科たる所以を示すものですらある。

一方で、公務員就職に至る経緯を考えたときに、公務員への就職は最初から企図されたものだったのか、進学を断念した結果だったのかという疑問も生じる。もちろん双方の理由があったのだろうが、前者の理由で専攻科に進学したのだとすると非常に興味深い。高等学校卒業程度の公務員試験では普通教育の内容が採用試験の中心であるから、専攻科は公務員試験の予備校としての機能を果たしていたという仮説が成立するからである。この点については、さらなる調査を要するので、今後の課題としたい。

（付記）本研究は科学研究費補助金（20K02435）の助成を受けたものである。

		1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986
		(昭和54)	(昭和55)	(昭和56)	(昭和57)	(昭和58)	(昭和59)	(昭和60)	(昭和61)
所管外	水産大学校	2							
	防衛大学校								
	職業能力開発大学校								
	計	2	0	0	0	0	0	0	0
短大・その他	短期大学				3	3	9	6	
	共立女子短期			1					
	東京女子短期			1					
	富山県立短期大学部								
	京都医療技術短期								
	京都女子大短期大学部								
	平安女学院短期			1					
	大阪女子短期			1					
	関西外国語短期			1					
	近畿大短期								
	武庫川短期								
	鳥取医療技術短期			1					
	鳥取短期								
	島根県立大短期大学部								
	島根県立女子短期								
	岡山県立短期大学部								
	川崎医療短期								
	倉敷市立短期								
	就実短期								
	新見公立短期								
	安田女子短期								
	徳島文理大短期大学部								
	看護学校				6	6	1	1	
	大阪警察病院看護								
	県立倉吉総合看護								
	鳥取県立鳥取看護専門								
	順正高等看護専門								
	専修学校･各種学校								
	大阪外語専門								
	鳥取県立歯科衛生専門								
	保育専門･その他				7	7			
	鳥取県立保育専門								
	その他						8	5	
	計	11	8	6	13	13	9	6	0
就職	国家公務員	10	11	22	20	13	10	11	8
	地方公務員								
	鳥取県職員	6	7	10	4	3	5	2	
	鳥取市職員						1		
	計	16	18	32	24	16	16	13	8

		1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994
		(昭和62)	(昭和63)	(平成1)	(平成2)	(平成3)	(平成4)	(平成5)	(平成6)
所管外	水産大学校								
	防衛大学校						1		
	職業能力開発大学校								
	計	0	0	0	0	0	1	0	0
短大・その他	短期大学		8	8	10	16	7		
	共立女子短期								
	東京女子短期								
	富山県立短期大学部								
	京都医療技術短期								
	京都女子大短期大学部								
	平安女学院短期								
	大阪女子短期								
	関西外国語短期								
	近畿大短期								
	武庫川短期								
	鳥取医療技術短期								
	鳥取短期								
	島根県立大短期大学部								
	島根県立女子短期								
	岡山県立短期大学部								
	川崎医療短期								
	倉敷市立短期								
	就実短期								
	新見公立短期								
	安田女子短期								
	徳島文理大短期大学部								
	看護学校		8						
	大阪警察病院看護								
	県立倉吉総合看護								
	鳥取県立鳥取看護専門								
	順正高等看護専門								
	専修学校･各種学校				5	6	4		
	大阪外語専門								
	鳥取県立歯科衛生専門								
	保育専門･その他								
	鳥取県立保育専門								
	その他								
	計	0	8	0	5	6	4	0	0
就職	国家公務員	9	4	4		2	1		
	地方公務員					1	1		
	鳥取県職員								
	鳥取市職員								
	計	9	4	4	0	3	2	0	0

		1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
		(平成7)	(平成8)	(平成9)	(平成10)	(平成11)	(平成12)	(平成13)	(平成14)
所管外	水産大学校								
	防衛大学校								
	職業能力開発大学校								
	計	0	0	0	0	0	0	0	0
短大・その他	短期大学			7	7	2	5	4	4
	共立女子短期								
	東京女子短期								
	富山県立短期大学部								
	京都医療技術短期								
	京都女子大短期大学部								
	平安女学院短期								
	大阪女子短期								
	関西外国語短期								
	近畿大短期								
	武庫川短期								
	鳥取医療技術短期								
	鳥取短期								
	島根県立大短期大学部								
	島根県立女子短期								
	岡山県立短期大学部								
	川崎医療短期								
	倉敷市立短期								
	就実短期								
	新見公立短期								
	安田女子短期								
	徳島文理大短期大学部								
	看護学校								
	大阪警察病院看護								
	県立倉吉総合看護								
	鳥取県立鳥取看護専門								
	順正高等看護専門								
	専修学校･各種学校			4	8	5	5	8	8
	大阪外語専門								
	鳥取県立歯科衛生専門								
	保育専門･その他								
	鳥取県立保育専門								
	その他								
	計	0	25	4	8	5	5	8	8
就職	国家公務員								
	地方公務員			1					
	鳥取県職員								
	鳥取市職員								
	計	0	0	1	0	0	0	0	0

		2003	2004	2005	2006	2007
		(平成15)	(平成16)	(平成17)	(平成18)	(平成19)
所管外	水産大学校					
	防衛大学校					
	職業能力開発大学校				1	
	計	0	0	0	0	0
短大・その他	短期大学					
	共立女子短期					
	東京女子短期					
	富山県立短期大学部		1			
	京都医療技術短期			1		
	京都女子大短期大学部			1	1	2
	平安女学院短期					
	大阪女子短期					
	関西外国語短期					
	近畿大短期					1
	武庫川短期		1			
	鳥取医療技術短期					
	鳥取短期	3	1			
	島根県立大短期大学部				1	1
	島根県立女子短期			1		
	岡山県立短期大学部	1				
	川崎医療短期			1		
	倉敷市立短期			1		
	就実短期	1				
	新見公立短期			1		
	安田女子短期				1	
	徳島文理大短期大学部				1	
	看護学校					
	大阪警察病院看護				1	
	県立倉吉総合看護				1	
	鳥取県立鳥取看護専門	1			1	
	順正高等看護専門				1	
	専修学校・各種学校					
	大阪外語専門	1				
	鳥取県立歯科衛生専門		1			
	保育専門・その他					
	鳥取県立保育専門		1	1		
	その他					
	計	7	5	7	8	4
就職	国家公務員					
	地方公務員					
	鳥取県職員					
	鳥取市職員					
	計	0	0	0	0	0

教育史研究のための大学アーカイブズガイド（31）
―法政大学 HOSEI ミュージアム―

田中（たなか） 智子（さとこ）（早稲田大学歴史館）

今回は法政大学 HOSEI ミュージアムを取り上げる。以前、本誌第51号で法政大学史センターについて取り上げたが、同ミュージアムはその後継組織にあたる。以下、その基本情報および所蔵資料について述べていく。

（1）基本情報

HOSEI ミュージアムは法政大学市ヶ谷キャンパス九段北校舎にある。同大学には 2013 年から大学史編纂や展示を行う法政大学史センターが存在したが、「2020 年 4 月、HOSEI ミュージアム開設に伴い、HOSEIミュージアム事務室設置（法政大学史センターの業務を移管）」[1] したということである。ここに法政大学史センターは発展的解消を遂げ、HOSEI ミュージアムに生まれ変わったのである。

HOSEI ミュージアムホームページによると、同ミュージアムの目的は「学校法人法政大学が設置する学校の歴史及び教育・研究成果、並びに本学が有する学術資源を広く展示、公開、調査・研究することにより、本学の教育・研究の発展に資すること」であり、その実施事業として以下の4点があげられている。

本学の特徴ある研究の創出と、教育・研究成果・資源の展示、公開

自由度の高い学術研究コラボレーションの促進

本学が有する学術資源の管理基盤強化

自校教育、大学史に関する調査・研究 [2]

これを第51号に掲載した法政大学史センター時代の事業と比較すると、展示が最上位にあげられていることもさることながら、学術研究のコラボレーションの促進が加えられていることが特徴的である。それは展示の内容にもよく表れている。次に、その展示の内容について見て

いく。

（2）展示紹介

HOSEI ミュージアムの展示は、中核的機能を担う①ミュージアム・コアと、各キャンパスの個性を伝える②ミュージアム・サテライトおよび③デジタルアーカイブの3つに大別される。

①は大学史ゾーンとテーマ展示ゾーンに分かれ、大学史ゾーンではデジタルサイネージと実物展示によって、大学の歴史や大学にゆかりのある人々について知ることができる。大学史ゾーンの展示は⑴「若者たちによる建学」―こだまする民権・法学知の普及―、⑵「進取の気象」―総合大学としての発展、そして戦時下へ―、⑶「自由と進歩」を追い求めて―戦後法政大学の歩み―の3つの大きなテーマに分かれており [3]、来館者自身が画面をスライドさせて動かしたり、タッチして詳細を表示させたりすることができる仕組みになっている。

【写真1】ミュージアム・コア（大学史ゾーン）

テーマ展示ゾーンでは、法政大学の教育・研究の個性を⑴「市民」と「地域」への視点、⑵平和の探求、⑶働く人々とその社会の探究、⑷対話する「伝統」と「現代」、⑸持続可能性、⑹文化・芸術・スポーツの群像の6つのテーマで表し、「毎回 1 つのテーマを通して、時代や社会と本学の接点を展示・紹介」[4] するもので、まさに学術研究のコラボレーションとなっている。2022 年 5 月からは⑴をテーマに「法政大学沖縄文化研究所 50 年の歩み」展が開催されている。

ミュージアム・サテライトは現在、市ヶ谷キャンパスに2ヶ所、小金井キャンパスに1ヶ所設置されている。市ヶ谷キャンパスではボアソナード・タワーと外濠校舎に設置されており、ボアソナード・タワーの展示では、写真と地図を用いて、法政大学の校舎やキャンパスの広がりを表現している。外濠校舎では常設展示として、HOSEI ミュージアム開設記念特別展示「都市と大学―法政大学から東京を視る」（2021 年 3～4 月開催）で作成されたパネル計 20 枚が展示されている。いずれも企画展・特別展の際に展示会場となることもある [5]。

【写真２】ミュージアム・サテライト（ボアソナード・タワー）

【写真３】ミュージアム・サテライト（外濠校舎）

（３）資料へのアクセス方法

（２）の展示で用いられているHOSEIミュージアム所蔵の資料（一部）は、同ミュージアムのデジタルアーカイブ内で検索・閲覧することが可能である。このデジタルアーカイブはタイトルやキーワードから資料を検索・閲覧できるだけでなく、「歴史」「テーマ」「人物」「コレクション」などのカテゴリーごとに資料を一覧で表示できることが大きな特徴となっている。また、ミュージアム・コア内のデジタル展示とも連動しており、開催中の展示の資料を見ることもできる。

HOSEIミュージアムデジタルアーカイブ
https://museum.hosei.ac.jp/archives/Users/Top

デジタルアーカイブにはHOSEIミュージアム以外の所蔵資料も登

録されているため、資料の閲覧・利用については、各所蔵機関に問い合わせをしていただきたい。なお、HOSEIミュージアム所蔵資料については、一般の閲覧利用は行っていないが、研究目的の場合は相談に応じるとのことであるので、研究上関心のある方はぜひ下記連絡先に問い合わせをしてみてほしい。

（つづく）

<連絡先>
法政大学HOSEIミュージアム事務室
TEL：03-3264-6501
E-mail：museum@hosei.ac.jp
URL：https://museum.hosei.ac.jp/index.html

1　全国大学史資料協議会ホームページ「大学史資料所蔵機関紹介：法政大学HOSEIミュージアム」
http://www.universityarchives.jp/institutes/hosei/
2 HOSEIミュージアムホームページ「ミュージアム概要」
https://museum.hosei.ac.jp/gaiyo/
3 同「大学史展示に関する詳しいご案内」
https://museum.hosei.ac.jp/daigakushi/
4 同「テーマ展示に関する詳しいご案内」
https://museum.hosei.ac.jp/themeten/
5 同「ミュージアム・サテライト市ヶ谷」
https://museum.hosei.ac.jp/museumsateraito2/

史料紹介

『校友』（松本中学校文芸部）第89号より その1

小西謙校長の「松中の再建」

冨岡（とみおか） 勝（まさる）（近畿大学）

前号までにつづき、旧制松本中学校および新制松本深志高等学校の生徒自治に関連した史料を紹介していきたい。

本号では、1947年3月15日に発行された松本中学校の校友会誌である『校友』（松本中学校文芸部）第89号の1頁に掲載された小西謙校長による「松中の再建」をとりあげる（史料中の傍点は原文どおり）。

小西謙は、1944年から松本中学の校長をつとめ、1948年4月には松本深志高校初代校長となり、同年11月に教頭であった岡田甫に校長職を引き継いだ。戦後初期の約3年間の松本中学を支えた人物である。

小西校長は、この「松中の再建」のなかで、松本中学校を戦後の新しい時代に再建するためには、松本中学の生徒自治の再建が欠かせないと述べている。ただし、「松中自治」の再建といっても、戦前の松本中学でおこなわれていた自治的活動をそのまま復活させるのではなく、「新らしい日本の新らしい松中の自治と呼ばれる実体を創り出せ」と述べている。つまり、戦前期の松本中学の自治の伝統を復活させることを宣言すると同時に、自治活動の中身は新時代にふさわしい新たなものを作り出すべきだとしている。

では、どのような新しい生徒自治を小西校長は期待したのだろうか、生徒たちはどのような内実をもった生徒自治を目指したのだろうか。次号以降に紹介する史料を通してこうした問いへのヒントをさがしていきたい。

松中の再建ということをわたくしは自分の責任だと思っている。松中立てなおしの能力があるかないかは別問題だが、わたしは全力を尽くしつつある。岡田先生ほか諸先生の直接な努力と協力、同窓会員父兄会各位の心

からの理解と支援によつて仕事は徐々にではあるが確実に進行している。生徒諸君も漸くにして精神的束縛 ― 過去のしむけられかたによって出来上がつていた心の殻 ― から脱却して来ている。わたくしは生徒諸君の今後に期待するものだ。わたくしは松中の再建はかかつて実に松中の自治の再建にあると信じている。松中の自治は新らしい日本が来て思い出され、久しい窒息の状態から息を吹きかえして来た。それは松中の歴史と現実にとつて大きな悦びである。しかし松中自治はまだ息を吹きかえしたばかりだ。それは自己を自覚して新日本の松中自治に成長してゆかなくてはならぬ。わたくしはこのことの可能を確信する。復活した松中の自治よ、成長せよ。脱皮せよ。新らしい日本の新らしい松中の自治と呼ばれる実体を創り出せ。それは松中生のものだ。松中生のうちに松中生によつてはぐくまれるものだ。わたくしはそれをはぐくむ松中生を信じつずける。期待は大きいのだ。着実にあぶな気なくそして出来れば速度を出して貰いたいと念願する。重ねて言うが松中再建は松中自治の再建にあるとわたくしは信じている。そしてそのためにわたくしは努力を惜しまない。

体験的文献紹介(37)
―『高等学校学習指導要領』の改訂 ―

神辺(かんべ) 靖光(やすみつ)(ニューズレター同人)

1960年代の後半から1970年代の前半まで、私は東京立正女子短大助教授、東京文化短大教授兼教務部長の職務の傍ら主に旧制中学校の発達変遷史を研究していた。しかしその一方で日本私学教育研究所嘱託研究員として全国の私立高校の校長諸氏や幹部教員と新制高等学校の「学習指導要領」の運用について検討を重ねていた。私が高等学校の「学習指導要領」に強い関心を持ち、さらに中等教育のカリキュラム検討に意欲を持ちはじめたことは本シリーズの前編「我流文献紹介」で略述したが別の角度から再度、述べたいと思う。

文部省が新制小学校、中学校、高等学校の「学習指導要領」を公示したのは1947年である。新制小学校、中学校が発足したばかり、新制高等学校は翌年春の発足を控えて準備中であった。戦後すぐにきた米国教育使節団の報告書は〝カリキュラムは各学校が独自につくらねばならず、政府がつくるのはまちがいだ〟と言っている。しかし日本は明治以来、文部省が〝教則〟の名で各学校のカリキュラムの規準をつくり、それに準じて各学校は授業をすすめてきたので、いきなり各学校がつくれと言われてもできない。そこで1947年、文部省が新しい小中高校の「学習指導要領」をつくり全国の諸学校に配布したのである。旧来の、〝この通(とお)りの授業をしろ〟という教則ではなく、〝児童生徒の学習を指導する手引〟という軽い意味で〝学習指導要領〟という柔軟(じゅうなん)な名称をつけ、それでもまだ腰を引いて〝これは文部省の試案だから各教員自身がつくって下さいネ〟という意味合いを込めて「試案」と表題したのである。1956年、講和条約調印後の「学習指導要領」から〝試案〟の文字が消え去り文部省の規制が強まったが、小中高いずれの学校も授業の実際は教員個人の考え方と実力によって行われていたから戦前の視学官による授業のさし止めのような不祥事はおこならなかった。しかし高等学校には戦前から危惧されていた情況が如実に起ったのである。それは新制

高等学校に普通科志望の生徒が片寄り急増したことであった。

昭和のはじめの1926年、新制高校の母胎となった旧制中学校の進学率はその年、尋常小学校卒業者の10.7%、もう一つの母胎・高等女学校の進学率は12.1%、さらにもう一つの母胎である実業学校への進学者はわずかだから消略する。しかし昭和初期の教学振興によりこれら中等学校への進学率は向上し終戦時には概ね40%前後になっていた。戦後6・3・3制になって政府・文部省と大都市を持つ都道府県を悩ませたのは新制中学校の開校と新制高等学校の動向であった。戦災で焼失した校舎を回復しなければならぬのに降って湧(わ)いたように新制中学校を建てねばならない。新制高校の進学率が高まるかどうかに関係者の注目が集った。

[表1] 1950～1975年 高等学校進学率

	1950年	1955年	1960年	1965年	1970年	1975年
男子	48.0%	55.5%	59.6%	71.7%	81.6%	91.0%
女子	36.7%	47.6%	55.9%	69.6%	82.7%	93.0%
平均	42.5%	51.3%	57.7%	70.6%	82.1%	91.9%

分母をその年の中学校卒業者数、分子をその年の高等学校進学者数として算出。数値の出典は『文部省統計要覧』(米田俊彦編『近代日本人の中等教育』p11(東京法令『日本の教育課題10 』所収)

大方の予想を超えて高校進学率の上昇は早かった。[表1]にみる如く戦後5年目の1950年には男子48%に上昇した。新学制によって前期中等教育たる新制中学校が義務教育になったから、そこに止(とど)まり、学資のかかる後期中等教育たる新制高等学校の進学者は急増しないだろうという見方もあったのである。このような予想を超えた進学率の上昇は50年に始まった朝鮮戦争の特需で急に豊かになった余得と説く向きもあるが、夜間定時制高校に向かう勤労青少年を多く見た私は旧来の中流家庭の子どもでない労働者階層の子弟が新制高校に加わったと思う。さらに注目すべきは進学校として名の通った新制高校に女生徒が進学したことである。新制高校発足時は男子は旧制中学校系の高校に、女子は

旧高等女学校系の高校に進学するのが通常であったが、大学進学を目ざす女子が、男子系の進学高校に加わったことは注目される。以後10年間の女子大生漸増(ぜんぞう)の予兆であり、60年代から70年代にかけての女子学生急増時代をもたらす出発点であった。新制高校生急増の傾向を把握した文部省の担当者は折しも改訂作業中の「高等学校学習指導要領」の素案を前回の「試案」から「文部省告示」に変更した。そこはベテラン官僚らしく当り障りのない専門用語を使っているが、要は大学受験に役立つ教科科目を網羅して3年間学べるコースと大学受験に関わりのない一般教養として高等学校の課程を履修し修得できるコースの2通りが置かれる用意をしたのである。高等普通教育を目ざす中等教育において進学と就職を目ざす二つのコースを置くことは教育の現場において混乱をおこす弊害をわれわれは旧制中学校一種二種課程で知っているが、1950年という時間の流れで忘れ去られたか、文部省の秀才官僚にはその痛痒(つうよう)が感じられないのか、この案は新設の教育課程審議会を通過して施行された。そしてほぼ同時に施行された「学習指導要領」は法的拘束力の強いものとなったのである。

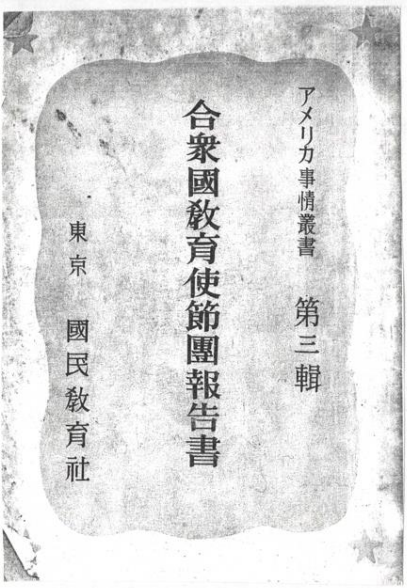
私が東京文化高等学校の教諭として赴任したのは新高等学校学習指導要領公示5年目の56年の春であった。新任教員として私は任務としての日本史・世界史の教材研究に没頭したことは本シリーズ(59)(60)で書いた通りである。私は就任初年から第1学年の学級担任をしていたが、翌年の春、高校主事(校長代行)から第2学年の〝進学組の担任をして貰う。できる生徒だよ〟と意味深長なことを言われた。それまで私は目の前の教材研究に追われて、わが校の教育課程全体を観ることを怠ってきたが、それではいかぬと思い直し本校のカリキュラムを読み直した。1956年の高等学校学習指導要領に則(のっと)っているが第2学年・第3学年を家庭科コースと理科コースにし、前者は学習指導要領の数学理科の教科科目を低レベルにおさえて少なくし、後者はそれをハイレベルに配分し増加している。理解しにくいカリキュラムであるが、それはわが学園の短期大学家政科への進学と新しく興した医療検査技師養成の医学技術学校へ卒業生を送り込もうとする魂胆からであった。医学技術学校というのは1952年、本学園

理事長で聖路加国際病院の院長・橋本寛敏氏の発案で当時、NHK ラジオドクターとして高名な近藤宏二氏を校長に迎えた専門学校である。血液検査をはじめ、さまざまな臨床検査をする技師を養成するのを目的に本学園の一隅に医学技術研究室を開いてはじまった。はじめは7、8人の生徒であったが、本学園の高校卒業生の中から数人の入学者があったのである。東京文化高校カリキュラムの理科コースはこれを指すのである。家庭科コースというのは毎年、本高校から20～30名程度の卒業生が本学短大家政科に進学するから名づけたものだが一学年概ね200人の中からわずか二、三十人の進学者を出して家庭科コースと名づけるとは適切でない。56年の学習指導要領は新制高校から新制大学への進学者が増加する傾向を睨んで高校のカリキュラムを大学進学者向きと卒業後、実社会に入る者のための二種類の科目を用意したので各学校はそれらを組み合わせて進学コースと一般コースをつくることができるようになっていた。これをわが高校にあてはめるのは甚だしい見当違いと思う。

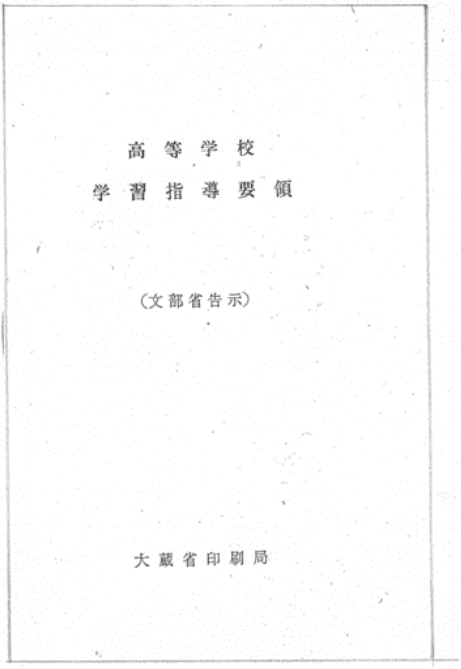
新制高校のなりたちをみると概ね旧制中学校が男子の新制高校になり、旧制高等女学校が女子の新制高校になった。しかし男女共学の原則があったから男子系の高校でも進学を望む女子は試験の上、入学を許可した。この女生徒は新制大学への進学を望む者で次第に増加した。この反対に男子で女子系の新制高校に進学を望む生徒はいなかった。男子の矜持（きょうじ）（プライド）が女子系高校への進学を許さなかったのであろう。そんな時代であった。こうして男子系高校は大学進学者がいまだ少数派であったにもかかわらず大学進学向きの教育課程であったのに対し、女子高校は非進学向きの教育課程に抑えられていた。そして戦前からの女子の専門学校進学の受け皿になったのが良妻賢母の余韻を残す短期大学家政科であった。

以上が新制高校発足10年の情況である。しかるにこの頃を境に日本の経済は高度成長に向かい、自民党系が政権を担い続けるようになる。これを受けて日本の教育は思想上の対立をくりかえしながら各学校が成長してゆく。東京都の私立高校でみれば年々応募者がふえている上に戦後のベビーブーム世代が高

校進学の年令に達したため空前の入学難になった。企業の東京集中のための人口増加の故もある。高校増設は必至であった。政府はこの事態に対応して都立高校の増設でなく私立高校を支援してこの危機を乗り切ろうと策した。機をみるに敏な東京都私立中学高等学校協会、日本私立中学高等学校連合会の幹部は文部省・東京都の担当者と連絡をとりつつ大量の生徒を受け入れるための施設設備の助成金獲得と中学高校学習指導要領改訂のために奔走しはじめたのである。



米国教育使節団報告書　左：表紙　右：扉　下：奥付

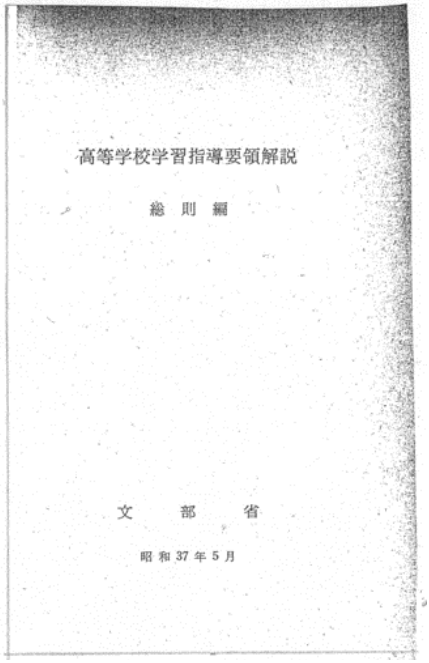


高　等　学　校
学　習　指　導　要　領

（文部省告示）

大蔵省印刷局

高等学校学習指導要領
1960（昭和35）年版



高等学校学習指導要領解説

総　則　編

文　　部　　省

昭和37年5月

高等学校学習指導要領解説総則編
1962（昭和37）年

『月刊ニューズレター　現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』
刊行要項（2015年6月15日現在）

1.（目的）広い意味で「現代の大学問題へのアプローチを視野に入れた研究」を各執筆者が互いに交流し、研究を進展させていくことを目的にこのニューズレターを発行します。

2.（記事のテーマ）記事は、広い意味で現代の大学問題へのアプローチを視野に入れた研究であれば、高等教育史だけでなく中等教育史や初等教育史なども含めた幅広いテーマを募集します。

3.（刊行頻度・期間）研究進展のペースメーカーとするため毎月刊行し、最低限3年間は継続します。

4.（編集委員会・編集世話人）発行主体は編集委員会とし、編集責任者として編集世話人を設け、当面は冨岡勝と谷本宗生が担当します。編集委員は、執筆者の中から数名程度募集します。

5.（執筆者）執筆者は、最低限1年間参加し、原則として毎月執筆してください。ご希望の方は、編集世話人までご連絡ください。執筆者は、刊行経費として毎年600円を負担してください。

6.（記事の責任）記事の内容については、執筆者で責任をもって執筆してください。参考文献・引用文献の出典を明らかにするなどの研究上の基本ルールはもちろん守ってください。また、ごくまれに、編集世話人の判断によって記事の掲載を見合わせることがあります。

7.（記事の種類・分量）記事の種類は、論考、研究上のアイデア、史資料の紹介、先行研究の検討など研究に関するものでしたら何でも結構です。記事1本分の分量は、A5サイズ2枚～4枚ぐらいを目安とします。

8. 毎月の刊行をスムーズに行うため、レイアウトなどは簡素なものにとどめます。世話人によるニューズレターの印刷は、国会図書館献本用などごく少部数にとどめます。執筆者にはニューズレターのPDFファイルをメールでお送りしますので、各執筆者で必要部数をプリンターで印刷するなどして、まわりの方に献本してください。

9. ニューズレターの内容は、下記のホームページで公開します。
http://home.hiroshima-u.ac.jp/komiyama/gen-dai-kyou-ken/

10. ニューズレターを中心とした研究交流をしていきますが、年に1回程度は、必要に応じて執筆者の交流会を開催します。

11. 以上の内容を変更したときは、この要項を改訂していきます。

以上

短評・文献紹介

2022年4月12日、YBS山梨放送などの報道によれば、山梨県は県立の「農業大学校」を「農林大学校」（北杜市）と改称し、果樹学科と園芸学科に加え、森林学科を新設した・・といいます。入学生は、果樹学科と園芸学科の28人に加え、新設の森林学科は9名でうち8名は県内から、1名は神奈川県秦野市からとのこと。森林学科は、県の森林総合研究所（富士川町）の敷地内に開設されて、在籍する生徒らはこれから2年間、チェンソーを使った伐採技術や林業機械やドローンなどの先端技術の操作方法も含め学び、造林・運搬から森林管理・林業経営の全般に精通する人材として育成され、卒業後には県内の関係企業や森林組合への就職が嘱望されているそうだ。山梨県内では、高度経済成長期に植えられた樹木（2018年の人工林は4274万㎥）の利用を迎えるいっぽう、林業就業者は900人前後で推移し、林業の担い手不足が行政の本音としては深刻のようです。県としては、森林整備・林業成長産業化推進プラン（2020～2029年度）も策定し、従来敬遠されがちであった地元地域社会での林業のイメージを払拭し、県内の青年層が主体的に職業選択できるようはかりたいという。（谷本）

『学童保育室の子どもたち24年間おしゃべりの記録』が5月に株式会社みらいから出版された。臨床教育人間学を学んだ著者の村上薫氏は、大阪府内の学童保育所に学童指導員として勤務しながら、子どものおしゃべりを記録しつづけて本書をまとめている。記録されているのは、例えばこんなおしゃべりである。

A男　先生　けんた　うるさい

B男　おまえも　うるさいやん

A男　なんやて！

C子　ふたりとも　うるさいやん

（小2男女　2011年10月）

家庭と学校の「はざま」である学童保育で、子どもたちは慣れてくると「体全体から発せられるような張りのある声で、口から出る言葉だけでなく、大きく目を見開き,体全体を使って」表現するという。同じ場での子どもたちの言葉を長期間にわたって記録した本は珍しいのではないか。著者による4コママンガも随所に挿入されていて楽しい。（冨岡）

会員消息

明治学院大学教養教育センターの田中祐介さんが、堤さんや徳山さんらと一緒に書いておられる『無数のひとりが紡ぐ歴史　日記文化から近現代日本を照射する』（文学通信、2022年3月）を、私にもご丁寧に謹呈いただきまして、どうもありがとうございました。前回の笠間書院から出された文献も、内容的にとても興味深いものでしたが、今回の文学通信さんからの文献もなかなか重厚な内容です。百聞は一見に如かず・・ゆえ、ぜひ皆さんもいちど手にしてご覧いただければ幸いです。（谷本）

最近は、時間のあるときに放送大学の講義をよく聞きます。オープンコースウェア（OCW）として、一般公開されている講義は、どれもとても面白いです。いろいろな分野の教材を揃えるのも趣味になっています。（山本剛）

今年度から初めて科研費をいただくことができ、ひとまず財布を気にせず文献などを買うことができるようになりました。ただ、なんとも買っている感じがしないのも困りものです。注文すると現物と同時に書類が届き、これを所定の手順に従って処理するだけなのでついつい買いすぎてしまいます。一通り必要な資料を揃え、コツコツ研究を進めていきたいと思っています。(猪股)

前号で紹介させていただいた「早稲田の女子学生　今昔物語　since1921」展（田中担当）は、無事会期終了を迎え撤収作業も完了しました。展示というものは、作り上げるまでにはかなりの時間と労力を要しますが、撤収する時はあっという間に終わってしまい、何ともはかないものです。ですが、IT 技術の進歩により、展示の中身をバーチャルで残しておくことが可能になりました。360°カメラで撮影した展示室の様子を、下記 URL からいつでもどこでもご覧になることができます。会期中にお越しになれなかった方は、ぜひ一度ご覧いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。（田中智子）

https://www.waseda.jp/culture/news/2022/06/02/16703/

大阪教育大学の連合教職大学院で、非常勤講師として「特別活動の展開」という授業を担当しています。今年は受講者がわずか4名で、各受講者の教職大学院での研究テーマと特別活動との接点を探りながら、毎回、特別活動の事例紹介や分析、指導計画の構想などで濃密な時間を過ごしています。お互いの話を聴き合い、話し合う上で、これぐらいの人数はぴったりだと改めて感じています。

第87号でも紹介した東京大学駒場博物館で開催されている展示「もうひとつの一高戦時下の一高留学生課長・藤木邦彦と留学生たち」の会期終了が6月24日に迫っています。3月に見る機会がありましたが、一次史料がふんだんに紹介されていて興味深いです。ご関心のある方は、お見逃しなく。早稲田大学の展示は見に行きたいと思いながら、タイミングを逸してしまいました。この「消息」で田中さんからご案内のあったバーチャル展示で少しでも雰囲気を味わいたいと思います。

次号では、旧制高等学校記念館夏期教育セミナーのご案内ができると思います。2020年はコロナのために1年延期、2021年はオンライン開催でしたが、今年は9月3日（土）午後に対面で実施できる方向で調整中です。おまたせして申し訳ありませんが、ご予定いただければ大変嬉しいです。（冨岡）

本ニューズレターのPDFファイルをダウンロードして、Adobe Reader 等のソフトの「小冊子印刷」機能を利用して「A4 サイズ両面刷り」に設定して印刷すれば、A5 サイズの小冊子ができます。